



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します

f シェアする

Tweet

🗺️ サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > まちづくりに新しい風を起こす ～日南市油津商店街における取組～ 株式会社油津応援団 村岡浩司さん、木藤亮太さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

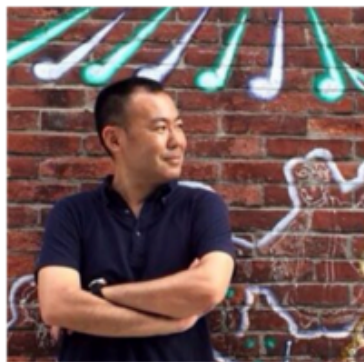
タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

まちづくりに新しい風を起こす ～日南市油津商店街における取組～



村岡浩司（むらおか こうじ）

1970年生まれ。宮崎県宮崎市出身。

株式会社油津応援団代表取締役社長／有限会社一平代表取締役社長

高校卒業後、米国（コロラド州）に留学。帰国後、小売卸業会社を起業。

「一平寿し」二代目店主。タリーズコーヒー6店舗、Cafe & Bar CORNER、蕎麦屋「そばとき」などの飲食店舗を経営する一方で、起業家支援アドバイザーや中心市街地活性化協議会委員、NPO法人の理



木藤亮太（きとう りょうた）

1975年生まれ。福岡県珂川町出身。

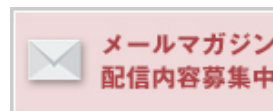
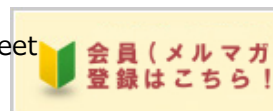
日南市油津商店街テナントミックスサポートマネージャー／株式会社油津応援団取締役

まちづくりに関する企画・計画、建築・ランドスケープ（造園）空間の計画・設計、市民参加型取り組みの企画・実践及びこれらに関わる諸調整などが専門。子守唄の里五木の村づくり（2008年土木学会デザイン賞）、重要文化的景観「萩野の棚田」、かなたけの里公園、古湯・熊の川温泉など。



f シェアする

Tweet





🔍 もっと詳しく検索する

事などを歴任。「Doまんなかモール委員会」の設立メンバー。

「街市」実行委員長。「新しい食文化を創造し、地域とひとを元気にする！」という理念のもと、本業の充実を図りながらまちづくり活動に精力的に取り組んでいる。

九州芸術工科大学（現九大）、同大学院を出て14年間、株式会社エスティ環境設計研究所に勤務、5年間取締役を務める。
日南市が実施した全国公募により2013年7月より現職、宮崎県日南市へ移住。

中心市街地（まちなか）に関わる活動と取組について

一ご自身の日南市の中心市街地（まちなか）との関わりについてお聞かせください

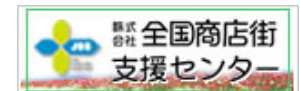
木藤／現地在住型の日南市テナントミックスサポートマネージャーに応募

平成25年に公募された日南市のテナントミックスサポートマネージャーに委託者として333人の応募者の中から選定されました。昨年の7月1日に着任して以来、油津の商店街活性化に取り組んでほぼ1年が過ぎたところになります。

もともと、福岡市でまちづくりのコンサルティング会社に努めていたのですが、計画書を作成することで関わりが終わってしまい、まちづくりの実践に関われない仕事に限界を感じていました。日南市との関わりはなかったのですが、日南市のテナントミックスサポートマネージャーの条件であった現地に4年間住むというところに魅力を感じて応募しました。ともかく現地で生活して活動することに魅力を感じました。

テナントミックスサポートマネージャーとしての任期は3年9カ月で、委託料は活動費込みで月額90万円です。就任時の成果目標は、ほぼ4カ年の在任中に商店街の中に20店舗誘致・出店させるということです。

油津商店街は、3つの商店街から構成され、長さが400mほどあります。半分はアーケードがかかった商店街で、その他の残りの部分のアーケードは撤去されています。ここに我々が立地したコーヒESHOPを含めて29店が立地しています。昭和40年代には80店舗以上の店が立地していたそうですから、現在は当時の3分の1程度です。現状で空き店舗はあるのですが、それ以上に空地が多いことが問題です。土地利用でみると、空き店舗率は約6割に達すると思います。



活性化に向けて、この1年間、関係者とのコミュニケーションや応援団づくりを中心に、いろいろなことをやってきましたが、今年4月には、本日ご一緒の村岡さんと一緒になって活性化を担う株式会社油津応援団を立ち上げ、その最初の事業として商店街のアーケードの入り口にコーヒーショップ「ABURATSU COFFEE（アブラツコーヒー）」を開店させました。コーヒーショップには、若い人を含め、幅広い世代の人たちが来てくれています。ここを拠点に、活性化に向けた動きを起こしていきたいと思っています。



村岡／コンペの審査員から事業者に

私は、もともと街元気サイトでもとりあげられたこともある宮崎市「Doまんなかモール」の立ち上げにかかわった事業者です。昨年度、日南市がテナントミックスサポートマネージャーの公募を行うときに審査員を拝命していたのですが、期せずして私自身が事業者として取り組むことになりました。

日南市の公式ホームページにも出ていますが、日南市の商店街は、これまで空き店舗を埋めるための施策を実施し、失敗を繰り返していました。こうした失敗を繰り返さないために、もっと持続性のある方向に向けてチャレンジすることが必要であり、商店街関係者自身が、油津地区住民自身が、未来に向かって考え、動いていく地区を創ろうという議論の中で、その推進役として選定されたのが木藤さんです。木藤さんが就任したことによって、まちづくりに向けた気運が大きく変わったと思います。

木藤さんはユニークなアイディアと行動力、前職の経験があり、可能性を感じる一方で、具体的な動きをどのように作り出すのか、その第一歩をどのように描くのが課題だったのだと思います。こうした中で、私自身もいっしょに会社を立ち上げ、出資を募って幅広い世代の人が集まるコーヒーショップの開店にこぎつけました。

事業としてのカフェ経営と、まちづくりの起点をめざす公共的視点の両立は、事業家としては新しい経験です。よそ者ですが、地元の人たちによる自分たちのまちおこしのきっかけづくりが行えればと思います。



木藤氏撮影

1 2 3 4

■ この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

[日南市油津商店街振興会HP](#)

[ABURATSU COFFEE HP](#)

[油津応援団HP](#)

[日南市HP](#)

登録日 2014年9月12日（金曜） 00:00

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > まちづくりに新しい風を起こす 日南市油津商店街における取組 - 2ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

まちづくりに新しい風を起こす ～日南市油津商店街における取組～

株式会社油津応援団の設立

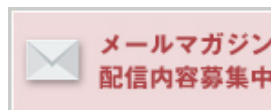
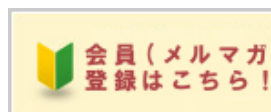
一商店街再生の第一弾事業「ABURATSU COFFEE（アブラツコーヒー）」について 教えてください

木藤／多様な世代交流の場としての「ABURATSU COFFEE」

株式会社油津応援団による商店街再生に向けた第一弾として、今年4月にオープンさせたのが、アーケード街の入り口に位置するコーヒーショップ「ABURATSU COFFEE」です。

「ABURATSU COFFEE」を開店した場所は、もともと「麦藁帽子」という昔ながらの喫茶店があったところでした。この喫茶店は、地域の人々の思い出が詰まった老舗の名店でした。改修前の店舗で、「思い出を語る会」を開催すると40～50人ぐらいの人が集まりました。50代、60代のお客様にとっては懐かしい場所です。

しかし、「ABURATSU COFFEE」には、油津に今まで見なかったような若い人たちも来るようになりました。ひとつには、九州パンケーキやアサイーボール等、これまでの日南ではなかったものを提供したことです。



もっと詳しく検索する



木藤氏撮影

村岡／“ほんもの”を提供することによって、世代を超えた価値観の共有をめざす

このように、以前からのお客様だけでなく若い人にも訴求することができたのは、「ABURATSU COFFEE」の開店に当たっては、年齢別にターゲットングするよりむしろ、20代、30代40代、50代と
いうように年代を縦に切るべきだと思ったからだと思います。世代を超えて「ABURATSU COFFEE」
が提供する世界観、提供している商品やサービスを共有することを重視したのです。

そのため、「ABURATSU COFFEE」では、この店でしか出せない“本物”を提供することにこだわっ
ています。一般的に流行っているチェーン店型のコーヒーショップなどを持ってくるのではだめな
のです。豆の選定、焙煎、淹れ方、すべてをこだわり抜き、スペシャルティコーヒーのプロでも納得できる
クオリティをめざしています。

お陰さまで、店は小さくて素朴ですが、ここならではの本物を出すことによって、アットホームな感
じのところに、いろいろな世代、属性の人たち集まってきてくれています。こうした経験からも、この
まちを元気にするために必要なのは、小さくてもいいから、本物を作り出すということだと思っていま
す。





木藤氏撮影



木藤／「ABURATSU COFFEE」の開店によって変化が生まれ始めている

実際、「ABURATSU COFFEE」を開店させたことによって、商店街の人たちの意識が変わったということについては、確実な手ごたえを感じています。例えば、油津商店街では、これまで週末は人が少ないため、開けていない店も多かったのですが、今年はABURATSU COFFEEがオープンするということで、開ける店も増えてきました。商店街のとある商店から、店を開けたら立ち寄る客があったと話して頂いたこともあります。人通りが増えたことをみて、商店街の人たちが、自ら客を積極的に捕まえようという意識が生まれたことは大きな変化だと思います。

また、小さなイベントを繰り返す中で集客率があがったり、商店街をイベント等の場としてつかってもらったりということも意識が変わるきっかけになっているようです。例えば、商店街としての自主事業ではなく、ケーブルテレビジョンが場所を借りて歌合戦を開催した際には、人が通りを埋めつくし、おでん屋さんが外に席を並べてまで客をとろうとしていました。このように商店主が自ら積極的に商売を行うことになったことは、大きな変化だと感じています。



木藤氏撮影

1 2 3 4

■ この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

[日南市油津商店街振興会HP](#)

[ABURATSU COFFEE HP](#)

[油津応援団HP](#)

[日南市HP](#)

登録日 2014年9月12日（金曜） 00:00

經濟產業省（法人番号 4000012090001）

主催／經濟產業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > まちづくりに新しい風を起こす 日南市油津商店街における取組 - 3 ページ目

街と、人と、生きていく。
マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

まちづくりに新しい風を起こす ～日南市油津商店街における取組～

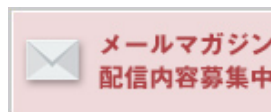
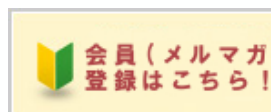
一株式会社油津応援団の設立はどのような意味をもっているのですか。

木藤／自走する仕組みとしての会社設立

現在、コーヒーショップを運営している株式会社油津応援団は、油津商店街のこれからのまちづくりを推進するための母体として、油津商店街のことを考える関係者が集まって設立した会社です。この会社を作ったねらいは、地域が自走できる仕組みを作ることにあります。

4年間で20店舗の立地・出店という成果目標を達成するためだけであれば、家賃補助を行うことにして、テナントを埋めるということも考えられますが、それではいずれは0に戻るか、マイナスになるかもしれません。本当に活性化を実現するためには、収益をあげて、雇用を生む中で活性化を実現し、地域が自走できる仕組みが必要だと思っています。

ABURATSU COFFEEがオープンして、多様な世代の人が集まる拠点となっていますが、そこを起点として人の流れを作り出す必要があります。その下地づくりがやっと終わったという状況です。



もっと詳しく検索する



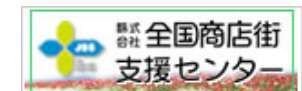
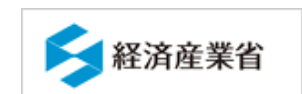
木藤氏提供

村岡／重要な事業としてのまちづくりの取組

今回のコーヒーショップに限らず、これからのまちづくりにおいては、新しい事業を位置付けていくことが重要なことだと思っています。以前、宮崎でまちづくりに取り組んでいた時は、事業というよりは、「にぎわい＝活性化」と考えて、イベントをやってきました。しかし、「事業」に焦点を当てた取組を始めたことによって、活性化の取組がうまくいきましたように感じています。

例えば、これからまちの中で実際に起業してビジネスを興そうとしている人をサポートして、計画立案にも参加させることが重要だと思っています。これまでは、昔からやっていた商店街組合の人が中心で、行政もそこを窓口にしようとしてきたところがありますが、発想を変える必要があるのではないのでしょうか。

また、まちづくり事業にかかわる人材を増やすことが重要です。地元後継者を育てるために、油津の場合、これから少し無理やりにでも若い人をまちづくり会社に参画してもらう必要があると思っています。実際、来年、油津応援団を増資するつもりですが、100%民間出資の株式会社なので、地元の若い30代、40代の人にも経営に参加してもらいたいと思っています。参加してもらった会社が少しでも多いので、配当もできたら、たいへん面白いことになると思っています。そういう仕組みはなかなかないと思っています。



木藤／Uターン人材の受け皿としても期待されるまちづくり会社

うれしいのは、日南は郷土愛が強い地域ということもあるかもしれませんが、最近の取組を見てUターンの帰ってきたいという人がでてきていることです。例えば、建築を個人でやっていて帰ってきたいとか、経理とか、会計士の仕事しながら、リーシングやマネジメントやりたいとかという人が出ています。できれば、そういう人たちをひとりでも捕まえていきたいと思っています。

日南のまちを変えることに、関心と魅力を持つ市民が一人でも増えれば、大きな力になるはずです。



木藤氏提供

今後のまちづくりに必要な人材と取組むべき課題

―まちづくりにあたって求められる人材とその育成方法についてどのようにお考えですか。

村岡／重要な新しい発想、アイデアを担う人

これからのまちづくりにあたっては、新しいアイデアとそれを担える人材が重要です。例えば、自分が油津の商店街に20店舗立地・出店させられるかと聞かれたら、自分自身は、正直なところ無理と答えてしまう。しかし、ここに木藤さんという新しいアイデアを持ち、風を起こせる人が現れたことによって、新しい展望が開け、みんなの意識が変わりつつあります。

木藤さんがやろうとしていることは、これまでの商店街の再生とは、まったく違う新しいやり方だと思います。商店街を商店街として再生するのではなく、新しいものを作ろうとしているのです。日南は、こういう新しい発想と行動力を備えた人材が登場したことによって、着実に変化してきていると思います。

村岡／期待される若手人材

13年間Doまんなかモール、頑張る商店街等をやってきた経験を踏まえると、これからの人材育成ということでは、30代が重要だと思っています。新しい発想を持つ30代が中心になってプランニングを行えるようにするため、それを経験したことのある40代がサポートすることが望ましいと思います。さらに、地域や行政とのネットワークを有する50代、60代がこうした取組を支えれば、強力な体制になると思います。

また、全国的にも例がないと思いますが、宮崎市実行部隊として大学生が活躍しています。ボランティア組織が大学横断でできており、ボランティアリーダーを自分たちで決めています。毎月まち市にやってくるのですが、来るメンバーも自分たちで調整しています。こういう若い世代のまちづくりへの参画をどんどん推進すべきだと思います。



木藤氏提供

木藤／人材を登用し生かす仕掛けづくりとコミュニケーション

人材の活用・育成については、日南の場合、私を含めてまちづくりのための人材を活かすための仕組みづくりにも、ぜひ注目してほしいと思います。もともと、1月90万円の報酬（委託料）ということで話題を作り、公開で行ったマネージャーを決めるプレゼンテーションには200人ぐらいの市民の人が、入れ替わり立ち替わり参加してくれました。

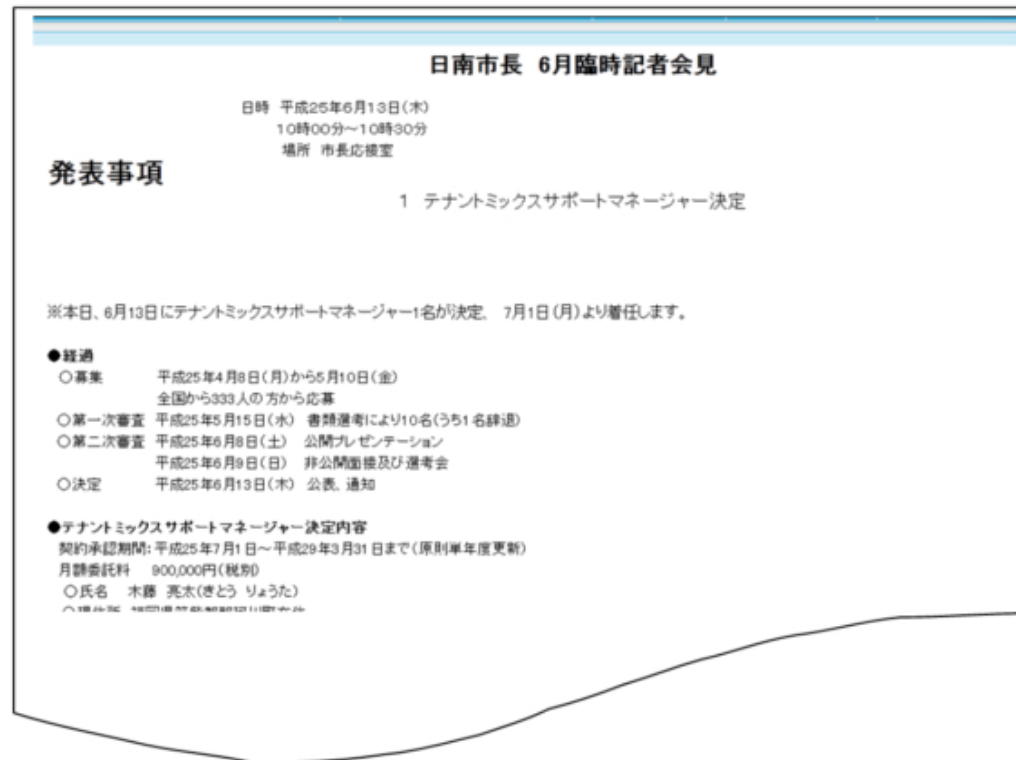
こうしたマネージャー選定の過程を通じて、私が来る前に、住民の中に「油津のまちが変わる」という意識が既に形成されていたように思います。予めまちが変わるという意識が形成されていただけに、私自身の仕事はたいへんやりやすくなりました。最初に家族とあいさつに回った時も白い目で見える人はいませんでした。むしろ30代、40代という同世代のメンバーが、応援するためにわらわらっと集まってくれて、たいへんうれしく感じました。みなさんのまちに対する思いがあることを改めて強く感じました。

こういう提供された状況を生かすという意味でも、常にコミュニケーションを行うことが大切だと思っています。もちろん、いつもうまくいくわけではなく、たまには怒られることもあります。しかし、それは自分のやることに関心をもっていただけるということだと思っています。今でも、コミュニケーションの面白さと難しさを常にかけています。

木藤／まちづくりへの覚悟

まちづくり人材の育成にあたっては、事業計画や会計処理等の基礎的なスキルも必要だし、あったほうがよいとは思いますが、それ以上にまちづくりに対する覚悟を決めて臨むことが重要だと思います。例えば、私の場合、90万円の報酬（委託料）は公表されているし、自分から手を挙げた手前もあり、覚悟を持ってやるしかない状況に追い込まれ、逃げも隠れもできない（笑）。

地域側からみると、日南市におけるテナントミックスサポートマネージャー事業は、そういう人間を作り出す仕組みになっていたということが言えます。まちづくりに必要な人材を増やすためには、こういう覚悟を決めさせる仕組みづくりも重要なのではないのでしょうか。



出所) 日南市HP

1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

日南市油津商店街振興会HP

ABURATSU COFFEE HP

油津応援団HP

日南市HP

登録日 2014年9月12日（金曜）00:00

經濟產業省（法人番号 4000012090001）

主催／經濟產業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet

サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > まちづくりに新しい風を起こす 日南市油津商店街における取組 - 4 ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

まちづくりに新しい風を起こす ～日南市油津商店街における取組～

一最後に、これからのまちづくりに向けて取組むべき課題についてお伺いします。

村岡／新しい取組への挑戦

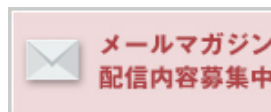
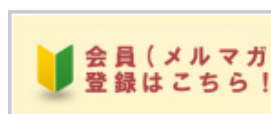
人口減少社会を展望すると、現在の商店街のすべてがそのまま残るということは難しいと感じています。しかし、時代の変化に対応することができた一部の商店街は生き残ることができると思っています。生き残ることができるのは、わざわざ訪れる価値のあるその土地ならではの個性的な空間やサービスだと思っています。

その意味で、商店街で新しい事業が生まれないと厳しいと思っています。また、空き店舗が生じることは必ずしも悪いことだとは思っていません。空き店舗が生じて、すぐに次の店が入り、機能更新、新陳代謝が進むのであれば問題は無いはず。様々な新しいビジネスの場として商店街が利用されればよいと思います。日南には、こうした新しいものが生まれるざわざわ感があると思っています。

また、新しい事業は、リスクがあるとよく言われますが、商店街のようにいままでうまくいかなかったところでは、これまでと同じことをやり続けてもうまくいくわけがありません。その意味では、新しいことをやる方がリスクは小さいということも言えるのではないかと考えています。ぜひ、油津で新しい取組を起こしたいと思っています。

木藤／チームとしての展開

この1年間を振り返って、何をやってきたかという、取組の応援団づくりを一生懸命やってきたと思っています。30代、40代の人で、商店街を応援してやろうという人々が集まってきました。こういう人たちはビジネスをやっているわけではないので、ボランティアで高校生を集めてイベントを行うなどの取組を手伝っていただきました。しかし、現在、検討している次の出店の仕掛けの中では、こうい



🔍 サイト内検索

検索

🔍 もっと詳しく検索する

う人にも絡んでもらい、自分のビジネスも展開していただきたいと思っています。

今の油津は立ち上がったばかりですが、こうして一緒にやっている人たちはチームだと思っています。新しい出店計画を始めとして、これからの取組ではチームがますます重要になります。村岡さんと一緒にチームの一員として新しい取組を担える人材を育てたいと思っています。

そもそも、僕らに期待されているのは、住民の方たちと一緒に取組むということだと思います。この人だったら変えていけるとか、この人なら新しいアイデアを提供するということでマネージャーに選ばれたわけではなく、この人だったら一緒にやれるということが重視されたのだと思っています。ですから、住民との付き合いも含め、引き続きチームづくりに注力していきたいと思っています。



出所) 油津応援団HP

【事務局コメント（編集後記）】



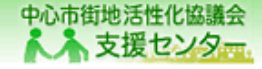
今回、インタビューさせていただいたお二人は、日南市の油津商店街にとって、地域に新しいアイデアを吹き込んでくれる「風の人」だと思います。しかも木藤さんは日南に居を構え、地域に根付く「土の人」にもなろうとしています。そんなお二人のインタビューを終えて、「ほんもの」と「コミュニケーション」という言葉が耳に残りました。

村岡さんから紹介していただいた、「ほんもの」にこだわることによって、その価値観に共鳴した人々を惹きつけるという「ABURATSU COFFEE」におけるサービス提供の考え方は、日南だけでなく、全国各地の地域活性化に対する重要なヒントになると思います。いろいろな地域の本物とは何かを、つい考えてみたくなってしまう。

また、ほぼ1年間、ずっと地域の方々との関係づくりに取り組んできた木藤さんのお話をお伺いし、「コミュニケーション」の重要性を改めて実感しました。よそものとして地域に入って、いろいろな場で成功も失敗も体験されているだけに、「コミュニケーションの面白さと難しさ」という言葉に重みを感じます。

本文中では紹介できませんでしたが、同席した市役所の方からは、日南市では、中心市街地活性化をきっかけにして、行政の内部でも、関係部門の連携が深まり、担当者間の横串がさせるようになったという話をお伺いすることができました。これも木藤さんの登場が生み出したコミュニケーションの広がりだと思います。

風を起こす人の登場が、今後の日南でどのようなことを引き起こすのか、今後の展開が楽しみです。またいつか、「ABURATSU COFFEE」で本物を味わいながら、話を聞いてみたいと思いました。



Tweet

1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

[日南市油津商店街振興会HP](#)

[ABURATSU COFFEE HP](#)

[油津応援団HP](#)

[日南市HP](#)

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.